

# 紀伊半島大水害 復旧・復興の現状と取組

平成26年2月更新版

奈良県紀伊半島大水害  
復旧・復興推進本部

## 目 次

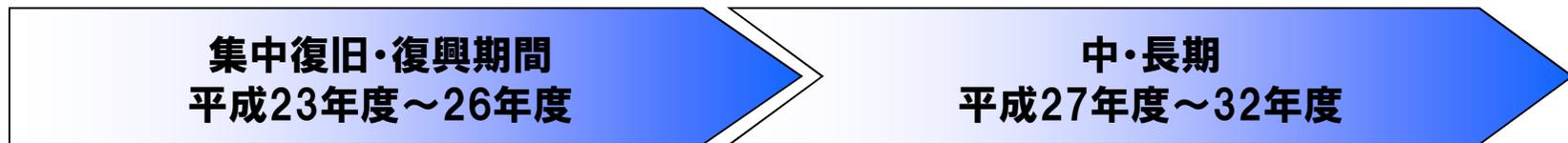
◆ 奈良県紀伊半島大水害復旧・復興計画の概要	.....	P 1
◆ これまでの復旧・復興の主な動き	.....	P 2
◆ 復旧・復興関係の予算概要	.....	P 3
◆ 避難者・仮設住宅の状況	.....	P 6
◆ 避難者の推移及び今後の帰宅等予定時期	.....	P 7
◆ 避難生活の早期解消に向けた取組の状況	.....	P 8
◆ インフラ等の復旧状況	.....	P 1 5
◆ 紀伊半島アンカールート	.....	P 2 4
◆ 農林業関係の復旧状況	.....	P 2 5
◆ 第3 4回全国豊かな海づくり大会～やまと～	.....	P 3 1
◆ 産業の復興状況	.....	P 3 2
◆ 観光業の復興状況	.....	P 3 4
◆ 福祉の充実	.....	P 3 7
◆ 安全・安心への備え	.....	P 3 8
◆ 災害時のライフライン（電気・通信等）の強化	.....	P 4 0
◆ 記録の整備、次世代への継承	.....	P 4 1
◆ 奈良県地域防災計画の見直しについて	.....	P 4 2
◆ 地域産業復興プロジェクトチームの取組状況	.....	P 4 3
◆ ふるさと復興協力隊	.....	P 4 5

# ◆奈良県紀伊半島大水害復旧・復興計画の概要

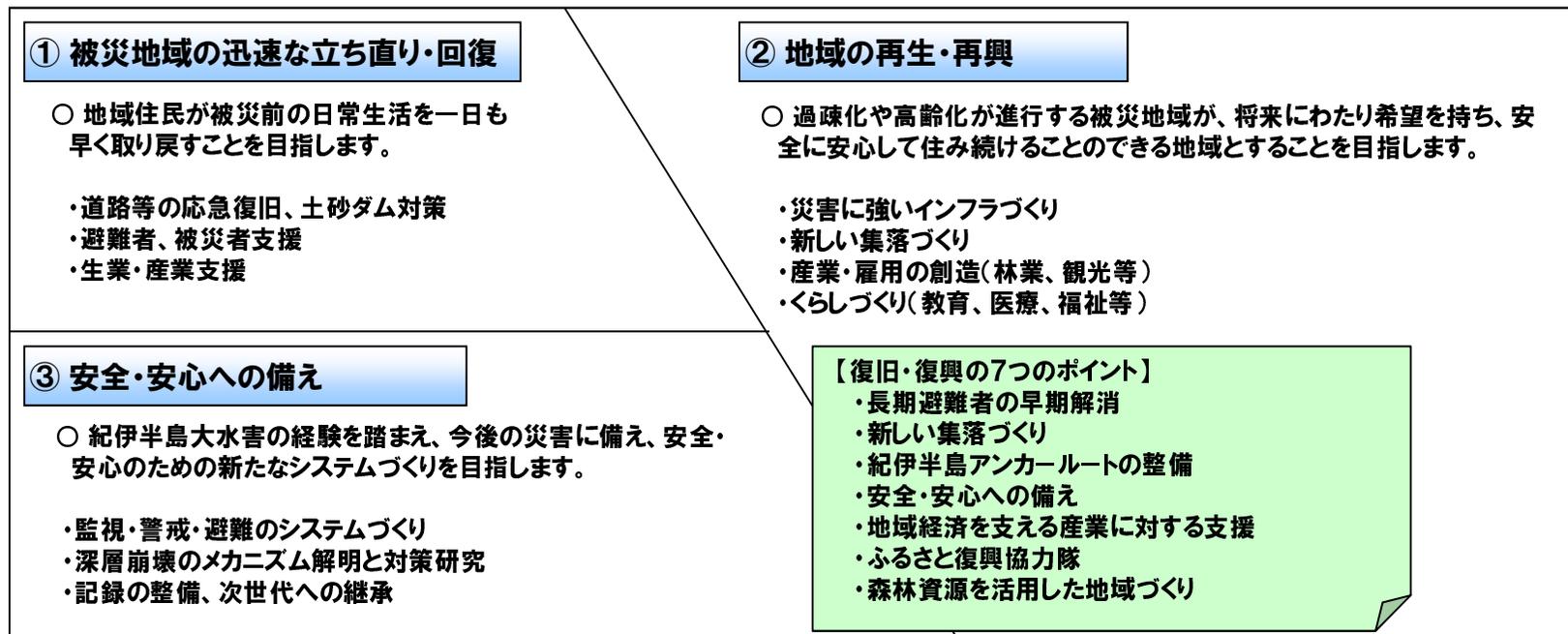
## ◆基本方針

百年の計に立ち、「災害に強く、希望の持てる」地域を目指す。

## ◆計画期間：平成23年度～32年度までの10年間



## ◆復旧・復興に向けた取組方針



## ◆これまでの復旧・復興の主な動き(計画策定以降)

平成24年

3月26日 第6回本部会議

- ・「復旧・復興計画」及び「同アクション・プラン」の確定について
- ・平成24年度以降の復旧・復興推進体制について  
(本部会議に計画推進会議及び計画推進チーム(8チーム)を設置)

4月 1日 復旧・復興担当副知事を配置

- ・土木部に深層崩壊対策室設置
- ・南部農林振興事務所に「復旧・復興調整係」設置

4月24日 第23回紀伊半島知事会議

5月18日 「災害復旧・復興に係る国の法令等の改善について」の政府提案活動

6月 5日 第3回国・三県合同対策会議(東京)

6月11日 第7回本部会議

7月 5日 復旧・復興関係の政府提案活動

8月31日 避難者の早期帰宅に向けた知事・3市村長  
記者会見

9月 6日 第1回復旧・復興シンポジウム

9月10日 第8回本部会議

11月14～16日 復旧・復興関係の政府提案活動

11月26日 第9回本部会議

12月17日 第2回熊野川堆積土砂対策連絡調整会議

平成25年

1月28日 復旧・復興関係の3県(奈良県・和歌山県・  
三重県)合同政府提案活動

2月 1日 復旧・復興アドバイザーとの意見交換会

2月 7日 第3回熊野川堆積土砂対策連絡調整会議

2月19日 第10回本部会議

4月23日 第24回紀伊半島知事会議

6月13日 第11回本部会議

7月10日～11日 復旧・復興関係の政府提案活動

9月 2日 第12回本部会議

9月 5日 第2回復旧・復興シンポジウム  
～インタープリバント2014プレイベント共催～

11月11日 第13回本部会議

11月20日 復旧・復興関係の政府提案活動  
・紀伊半島アンカールート<sup>®</sup>の早期整備など

11月23日～24日 なんゆう祭(南部地域産業復興推進大会)

12月26日 第4回熊野川堆積土砂対策連絡調整会議

平成26年

2月24日 第14回本部会議  
・復旧・復興の現状と取組について  
・平成26年度版アクション・プラン

# ◆復旧・復興関係の予算概要(平成26年度当初予算案)

(復旧・復興関係)

平成26年度当初予算案(平成25年度2月補正予算案含む)

23,104百万円(対前年度▲4,012百万円)

(平成25年度当初予算(平成24年度2月補正予算含む) 27,116百万円)

## (主な復旧・復興事業)

※百万円単位で四捨五入しているため数値の合計は一致しません

### ① 被災地域の迅速な立ち直り・回復

○道路等の応急復旧、土砂ダム対策 4,697百万円(H25 9,087百万円)

公共土木施設災害復旧(2,626)

治山事業(1,957)

簡易水道事業等整備の推進(114)

○避難者、被災者支援 19百万円(H25 13百万円)

応急仮設住宅の設置(10)

仮設住宅入居者への生活家電等レンタル(3)

被災児童・生徒等の心のケア(3) など

○生業・産業支援 64百万円(H25 142百万円)

被災事業者等に対する金融支援(51)

被災地域の物産販売促進支援(12)

文化財被害対策(小辺路等の補修)(1)

(H25 )は、H25年度当初・H24年度2月補正予算の合計額／( )はH26年度当初・H25年度2月補正予算案の合計額:百万円

## ② 地域の再生・再興

○災害に強いインフラづくり	17,146百万円(H25 16,582百万円)
紀伊半島アンカールートの整備(8,748)	ヘリコプターテレビ伝送システムの整備等(191)
土砂災害の恒久的対策(3,971)	避難所機能緊急強化補助(35)
河道掘削等の堆積土砂除去(120)	陸上自衛隊駐屯地の誘致促進(20)
林道の整備(264)	バス交通の確保(234) など
大和路情報ハイウェイ強化(10)	
○新しい集落づくり	290百万円(H25 699百万円)
復興集落づくり調整・管理支援(6)	
復興住宅建設等の支援(284)	
○産業・雇用の創造(林業、観光等)	626百万円(H25 298百万円)
県産材を活用した新たな木材製品開発(2)	第34回全国豊かな海づくり大会(265)
県産材首都圏販路拡大(13)	南部地域観光復興プロモーション(25)
木質バイオマス実証実験(40)	南部東部地域活性化イベント開催・支援事業(30)
企業立地促進補助(被災地域復興加算)(100)	スポーツイベントの開催・支援(15) など
小水力発電設備設置・導入支援(44)	
○くらしづくり(教育、医療、福祉等)	37百万円(H25 35百万円)
へき地教育の充実(7)	復興のための活動を行うNPO等の支援(3)
高校生の部活動・勉強合宿の誘致(8)	移住・交流の促進(14) など
地域で暮らし続けるための仕組みづくり(2)	

(H25 )は、H25年度当初・H24年度2月補正予算の合計額／( )はH26年度当初・H25年度2月補正予算案の合計額:百万円

## ③ 安全・安心への備え

○監視・警戒・避難のシステムづくり、  
 深層崩壊のメカニズム解明と対策研究 110百万円(H25 136百万円)  
 大規模土砂災害対策推進(103)  
 国際防災学会等開催(7)

○記録の整備、次世代への継承 1百万円(H25 12百万円)  
 『奈良の災害史』発行記念イベントの実施(1) など

## ④ その他

○復旧・復興の推進 114百万円(H25 113百万円)  
 ふるさと復興協力隊設置(88)  
 復旧・復興計画の進捗管理等(25) など

(H25 )は、H25年度当初・H24年度2月補正予算の合計額／( )はH26年度当初・H25年度2月補正予算案の合計額:百万円

## (参考)復旧・復興関係予算額

## 【平成23年度】

・予備費充用額 62百万円  
 ・知事専決処分 6,905百万円  
 ・9月補正予算 7,288百万円  
 ・11月補正予算 18,644百万円  
 ・2月補正予算 501百万円

## 【平成24年度】

・当初予算 25,371百万円  
 ・9月補正予算 180百万円  
 ・12月補正予算 192百万円  
 ・2月補正予算 5,136百万円

## 【平成25年度】

・当初予算 21,981百万円  
 ・6月補正予算 434百万円  
 ・9月補正予算 7百万円  
 ・2月補正予算案 1,842百万円

## 【平成26年度】

・当初予算(案)  
 21,262百万円

# ◆避難者・仮設住宅の状況

## 【これまでの取組成果】

被災直後（H22.9.5） 938人 → 現在（H26.2.7） 163人  
 ※H26年8月末までには、すべての避難者が帰宅可能となる見込み

## ○避難者数

※避難世帯数、避難者数には自主避難を含む

年月日	市町村数	避難所数 (箇所)	避難世帯数 (世帯)	避難者数 (人)
被災直後 H23年 9月5日 11:00	1市 1町 7村	52	359	938
8月末発表時 (被災1年) H24年 8月24日	1市 2村	0	170	346
前回報告 H25年 11月15日	1市 2村	0	84	176
現在の 状況 H26年 2月7日	1市 2村	0	<b>75</b> (うち避難勧告・指示対象 53)	<b>163</b> (うち避難勧告・指示対象 107)

◇被災直後からの増減  
 世帯数 ▲284  
 人数 ▲775

◇被災1年からの増減  
 世帯数 ▲95  
 人数 ▲183

◇前回報告からの増減  
 世帯数 ▲9  
 人数 ▲13

## ○応急仮設住宅の入居状況(平成26年2月7日現在)

市町村名	仮設 箇所数	26年 2月7日現在		前回(25/11/15)		増減	
		世帯数	人数	世帯数	人数	世帯数	人数
五條市	2箇所	<b>28</b>	<b>50</b>	33	56	▲ 5	▲ 6
野迫川村	1箇所	<b>25</b>	<b>58</b>	25	58	0	0
十津川村	3箇所	<b>15</b>	<b>36</b>	16	37	▲ 1	▲ 1
合計		<b>68</b>	<b>144</b>	74	151	▲ 6	▲ 7

(内訳)  
 五條市 7世帯 9人  
 十津川村 2世帯 4人

# ◆避難者の推移及び今後の帰宅等予定時期

## 【市村別の避難者数の推移】

	五條市		野迫川村		十津川村	
	世帯数	人数	世帯数	人数	世帯数	人数
23年9月(ピーク時※)	105	204	114	239	237	427
24年8月末(被災後1年)	103	189	33	81	34	76
前回報告(11/15)	39	68	27	63	18	45
26年2月7日現在	32	59	27	63	16	41
(ピーク時との増減)	▲ 73	▲ 145	▲ 87	▲ 176	▲ 221	▲ 386

※ピーク時 五條市:9月4日 野迫川村9月4日 十津川村:9月5日

## 【今後の帰宅等が可能となる目処】※

	五條市		野迫川村		十津川村		合計		避難者の推移見込	
	世帯数	人数	世帯数	人数	世帯数	人数	世帯数	人数	世帯数	人数
26年3月末	2	3	0	0	16	41	18	44	57	119
26年5月末	4	9	0	0	-	-	4	9	53	110
26年6月末	15	26	27	63	-	-	42	89	11	21
26年8月末	11	21	-	-	-	-	11	21	0	0

※【帰宅等が可能となる目処】は、避難の原因を解消するための対策工事（復興住宅の建築含む）が完了する予定の時期等を記載。  
 なお、実際に避難者の帰宅が完了するのは、上記に引越期間等（概ね1～2ヶ月）を考慮した時期となる予定。

### <前回からの相違>

五條市 前回報告時は26年3月末とされていた6世帯が、**26年5月末(4世帯)**、**26年6月末(2世帯)**に変更  
 (詳細は14ページ)

野迫川村 前回報告時は26年3月末とされていた27世帯が、**26年6月末**に変更  
 (詳細は12ページ、14ページ)

# ◆避難生活の早期解消に向けた取組の状況

## ○主な地区の状況(総括表)

地区名 (避難指示等 発令状況)	避難者数	仮設 入居 世帯	関連砂防工事の 実施状況	工事の完成予定	市村の復興住宅建築状況	帰宅可能 となる 目処
五條市辻堂 (避難指示・勧告)	12世帯 23人	8	県砂防工事(鍛冶屋谷)	H26.3末完成予定		H26.8
			県砂防工事(柳谷)	H26.8末完成予定		
五條市 宇井・清水・閉君 (解除済)	6世帯 15人	6	河川災害復旧工事 (堆積土砂撤去)	堆積土砂は県道が浸水しないレベルまで撤去済	阪本(天辻)地区に4戸建築中 (完成予定 3月末→5月末に変更)	阪本 H26.5
			国土交通省大規模崩壊対策 砂防工事	国は、仮設護岸完成	宇井地区に2戸建設中 (完成予定 3月末→6月末に変更)	宇井 H26.6
五條市 飛養曾・引土 (避難勧告)	13世帯 20人	13	林野庁治山工事 山腹対策工事実施	継続して実施予定 (25年度分は2月末完了予定)		H26.6
			市道復旧工事	H26.6復旧見込		
野迫川村 北股 (避難指示)	27世帯 63人	25	国土交通省砂防工事 (岩の谷)	堰堤工事完成済み	北股地区に、5戸建築中 (完成予定 3月末→6月末に変更)	H26.6
			県砂防工事(イデ谷)	完成予定 3月末→5月末に変更		

# ○主な地区の状況

## ◇辻堂地区 ※避難指示(一部避難勧告)発令中

避難世帯	避難者数
<b>12世帯</b> (うち仮設 8世帯)	<b>23人</b> (うち仮設15人)

(平成26年2月7日現在)

### ○避難生活の解消に向けた取り組み状況

- ・市内中心部など地区外での生活を希望された避難者は、市営住宅等への転居が完了。
- ・自宅等へ戻ることを希望される避難者は、避難指示・避難勧告が解除後に帰宅可能となる。(8月末の見込み)  
 なお、同地区の避難者が入居する応急仮設住宅の使用期限は、市からの期限延長にかかる要望を踏まえ、避難指示・避難勧告解除後の引越期間等2ヶ月を考慮して10月末まで延長予定。
- ・県と五條市が共同して、地区の復興住環境整備に向けた検討を実施。
- ・地区全体の復興集落づくりに向けた取組について、県が専門技術的な支援のできるコンサルタントに委託し、支援を実施中

### ○関連する工事等の状況

- ・災害関連緊急砂防事業(県)により鍛冶屋谷及び柳谷の対策工事を実施中。(柳谷堰堤工事は8月末完了見込み)
- ・柳谷は、台風18号により被災(斜面崩壊と土砂の流出)し、現在対策工を実施。
- ・国道168号(現道)の通行再開は、平成26年8月末になる見込み

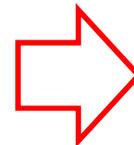
### 台風18号 被災前

(柳谷)



工所用進入路設置状況

平成25年6月18日撮影



### 現在の状況



進入路・現場被災状況

平成26年2月10日撮影

◇宇井・清水・閉君地区 ※避難指示・避難勧告は解除済み

避難世帯	避難者数
6世帯 (うち仮設6世帯)	15人 (うち仮設15人)

(平成26年2月7日現在)

○避難生活解消及び集落復興に向けた取り組み状況

- ・対策工事の進捗により、平成24年11月1日に避難勧告を解除済
- ・市内中心部など地区外での生活を希望された方は、市営住宅等へ転居済
- ・自宅へ戻ることを希望された方は、自宅に帰宅済
- ・小規模住宅地区改良事業として、平成25年8月より復興住宅敷地造成工事を市が実施中
- ・自宅が被災し、大塔町内での生活を希望された避難者のため、復興住宅を市が建設中(詳細はP14)
- ・生活再建に必要な地区内道路や公共広場などの住環境整備も市が推進
- ・市の復興住宅建設関連事業について、県が専門技術的な支援のできるコンサルタントに委託し、支援を実施中

○関連する工事等の状況

- ・河川災害復旧事業(県)により熊野川の堆積土砂撤去を実施し、県道高野辻堂線が浸水しない程度まで復旧済み。
- ・直轄特定緊急砂防事業(国)により、大規模崩壊箇所の仮設護岸工は平成24年10月に完成、上部法面工を実施中。  
(平成25年9月の18号台風の影響により仮設護岸170mが被災したが補強のうえ復旧済み)

被災直後



平成23年10月19日撮影

現状



平成25年12月25日撮影(斜面对策状況)



平成26年1月24日撮影  
(台風18号被災仮設護岸復旧完了)

## ◇飛養曾・引土地区 ※避難勧告発令中

避難世帯	避難者数
<b>13世帯</b> (うち仮設 <b>13</b> 世帯)	<b>20人</b> (うち仮設 <b>19</b> 人)

(平成26年2月7日現在)

## ○避難生活の解消に向けた取り組み状況

- ・直轄治山事業（国）が進捗し、H25.6.1に避難指示から避難勧告へ変更。  
朝・昼・夕に通行可能な時間を設定し、一時帰宅は可能。
- ・市、県、国（国交省、林野庁）による「避難勧告等の解除に向けた検討会」を設置（H25.8.6）し、解除時期を検討中。（市道が復旧予定の6月末までに解除する方向で検討中）
- ・同地区の避難者の自宅は被災していないため、避難勧告が解除されれば自宅へ帰宅する予定。

## ○関連する工事等の状況

- ・直轄治山事業（国）により山腹の対策工事を実施中。25年度工事は2月末に完了予定。  
(26年度以降も、引き続き実施予定)
- ・市道川西線の災害復旧工事（市）は、直轄治山工事との工事間調整を行いながら実施予定（契約済）。  
(平成26年6月完成見込)

## 前回



土砂掘削作業中 平成25年8月20日撮影

## 現状



アンカー固定中 平成26年1月24日撮影

◇野迫川村北股地区 ※避難指示発令中

避難世帯	避難者数
27世帯 (うち仮設住宅25世帯)	63人 (うち仮設住宅58人)

(平成26年2月7日現在)

○避難生活解消及び集落復興に向けた取り組み状況

- ・自宅へ戻ることを希望された避難者は、避難指示解除後に帰宅可能となる予定
- ・小規模住宅地区改良事業として、平成25年9月より復興住宅敷地造成工事を村が実施中
- ・自宅が被災した避難者のため、同地区内に復興住宅を村が建設中(詳細はP14)
- ・生活再建に必要な地区内道路や公共広場などの住環境整備も村が推進
- ・村の復興住宅建設関連事業について、県が専門技術的な支援のできるコンサルタントに委託し、支援を実施中

○関連する工事等の状況

- ・直轄特定緊急砂防事業(国)により岩谷の対策工事を実施中、平成25年12月末に堰堤本体工を完了。引き続き、溪流保全工、上流砂防堰堤工等に着手予定。
- ・砂防事業(県)によりイデ谷の対策工事を実施中、台風18号の被災影響により、平成26年5月末に堰堤工を完了予定。

被災直後(岩谷)



平成23年9月6日撮影

現状



平成26年1月9日撮影(上流より)

■岩谷(国工事)の対策工事の状況



平成26年1月9日撮影(下流より)

# ○十津川村での新しい集落づくりに向けた取組状況

避難世帯	避難者数
<b>16世帯</b> (うち仮設住宅15世帯)	<b>41人</b> (うち仮設住宅36人)

(平成26年2月7日現在)

## 【これまでの取組成果】

- ・今後のモデルとなる安心拠点集落として谷瀬地区・猿飼(高森)地区を選定(県による技術的支援)
- ・谷瀬地区や猿飼(高森)地区の景観に馴染んだ復興住宅を建設(県による設計等支援)
- ・学生との連携による住民ヒアリング等を実施し、地域交流、介護・福祉機能などを持つ安心拠点施設のあり方等を県から提案
- ・「復興モデル住宅ニュース」や「復興住宅ニュース」を発行(情報発信に関する県の支援)
- ・村による取り組みを推進するため、県が専門技術的な支援のできるコンサルタントに委託し、支援を実施中

## ◇復興住宅等の建設について

- ・村と地元工務店等が連携し、十津川村の伝統形式による復興モデル住宅を建設(平成25年7月)。
- ・本取組が地域住宅計画賞を受賞(平成25年10月)。このモデル住宅において、被災者のために住宅相談会等を開催
- ・谷瀬地区・猿飼(高森)地区に、住宅被害を受けた被災者向けの復興住宅を十津川村が建設中(詳細はP14)



「活力と魅力あふれる村づくり推進委員会」の様子(十津川村役場にて)

## 【集中復旧・復興期間最終年度の主な取組】

村の芯づくり事業を進めるための具体的なプロジェクトを立ち上げ、実施への道筋をつけるために支援

「新しい集落づくり」の取り組み／安心拠点施設等の検討等(平成26年度～)

- 谷瀬集落／集落一帯となって、やりがい・生きがいが見られる場をつくる
  - ・村内外との交流活性化や特産品開発などの取り組みの中で、地域の担い手の発掘・育成を推進。
  - ・特産品の加工所・販売所整備を含む住民による谷瀬地区むらづくり計画の策定 など
- 猿飼(高森)集落／村に最期まで住み続け、助け合い支え合う住まい方モデルを実現する
  - ・復興住宅に引き続き、特別養護老人ホームと連携した『高齢者向け施設』等の整備を進める。
  - ・施設の運営・管理主体のあり方について検討を進める。
  - ・『高齢者向け施設』等とともに、集落内外からの人もくつろげる集落空間をめざす。

### H26年度予算案

- 復興住宅建設等補助事業  
ハード整備補助(220,459千円)
- 復興住宅建設等支援事業  
行政実務・技術支援(64,000千円)
- 復興集落づくり調整・管理支援事業  
専門家活用補助(6,000千円)



# ○復興住宅の建設状況

## 【これまでの取組成果】

- ・住宅被害を受けた被災者向けの復興住宅を、五條市、野迫川村、十津川村が各地区で建設中（県支援）
- ・平成26年1月に十津川村猿飼（高森）地区で3戸完成。以降各地区で順次完成予定

### ■五條市での建設状況

阪本(天辻)地区 4戸（平成26年5月末完成予定）

宇井地区 2戸（平成26年6月末完成予定）

<予定より遅延している理由>

【阪本(天辻)地区】全国的な建築資材不足や作業人員確保の難しさにより遅延

【宇井地区】上記に加え、人工地盤の施工について、地盤状況による設計変更が生じたことにより遅延

### ■野迫川村での建設状況

北股地区 5戸（平成26年6月末完成予定）

<予定より遅延している理由>

全国的な建築資材不足や作業人員確保の難しさに加え、冬の雪の影響等により遅延

### ■十津川村での建設状況

谷瀬地区 4戸（平成26年3月末完成予定）

猿飼(高森)地区 9戸（A団地3戸：平成26年1月完成  
B団地2戸：平成26年2月末完成予定  
C団地4戸：平成26年3月末完成予定）



阪本（天辻）地区建設状況  
（平成26年2月3日撮影）



北股地区敷地造成状況  
（平成26年2月4日撮影）



谷瀬地区建設状況  
（平成26年2月3日撮影）



猿飼（高森）地区A団地完成  
（平成26年1月16日撮影）

## 【集中復旧・復興期間最終年度の取組】

- ・完成予定が平成26年5月または6月となる五條市、野迫川村の復興住宅について、早期完成に向けて引き続き支援

# ◆インフラ等の復旧状況(大規模崩壊への対策)

## 【これまでの取組成果】

大規模崩壊対策が必要となった18箇所（県実施12箇所、国実施6箇所）については、全ての箇所で工事中。

## ○県による大規模崩壊対応12箇所

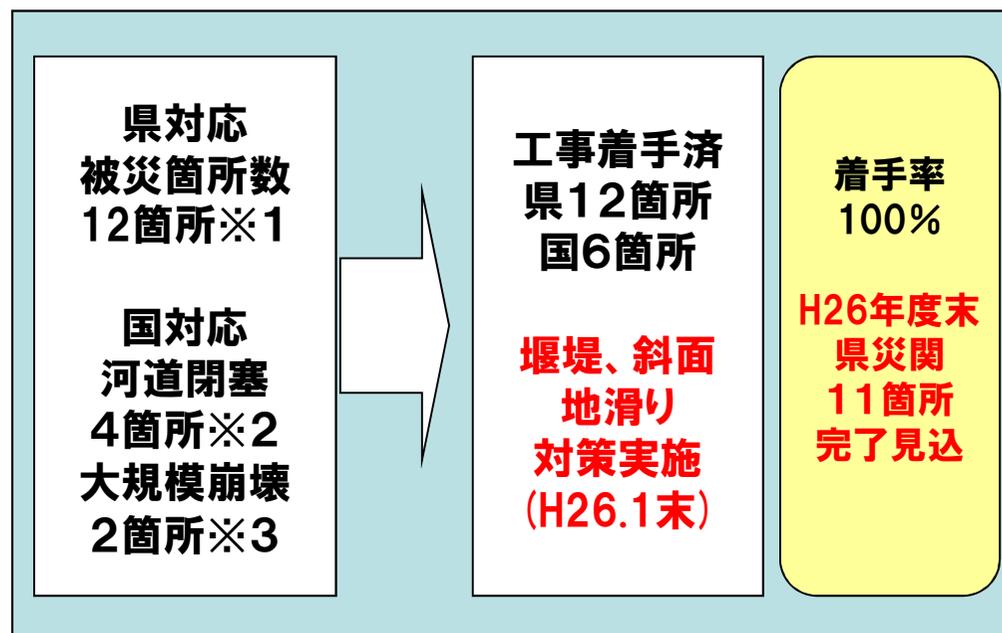
災害関連緊急事業：H26年度11箇所完了、H27年度1箇所完了

（※山腹工等は通常砂防事業で引き続き実施予定）

- \* 1 五條市大塔町辻堂柳谷・鍛冶屋谷  
御杖村土屋原  
黒滝村赤滝、中戸  
天川村広瀬  
十津川村重里、小井、折立、  
宇宮原、今西  
東吉野村麦谷

## ○国による河道閉塞・大規模崩壊対策6箇所：H28年度完了

- \* 2 五條市赤谷  
野迫川村北股  
十津川村長殿、栗平
- \* 3 五條市清水（宇井）  
天川村坪内



## 【集中復旧・復興期間最終年度の取組】

・県実施の12箇所のうち、五條市辻堂柳谷を除く11箇所の工事をH27年3月末までに完成させる予定。  
※国実施工事は、H28年度の完了に向けて引き続き工事を実施

## 県による復旧・対策状況

箇所名	完成目標	H26年度 工事实施内容	H25年度 工事实施内容	H24年度までの進捗状況
五條市大塔町辻堂柳谷※	27年度※	災関堰堤工、山腹工	災関堰堤工	災関堰堤着手
五條市大塔町辻堂鍛冶屋谷	26年度	山腹工、現国道の復旧	災関堰堤工、現国道の復旧、山腹工	災関堰堤着手
御杖村土屋原	26年度	溪流保全工	堰堤工、溪流保全工	災関堰堤完成、2号堰堤着手
黒滝村赤滝	26年度	堰堤工	災関堰堤工、堰堤工、付替村道	災関堰堤着手
黒滝村中戸	26年度	前庭保護工、溪流保全工	災関堰堤工、前庭保護工	災関堰堤着手
天川村広瀬(地すべり対策工事)	26年度	排水路工	アンカー工	抑制工完成、抑止工に着手
十津川村重里	26年度	前庭保護工、橋梁工	災関堰堤工、溪流保全工	災関堰堤着手
十津川村小井(地すべり対策工事)	26年度	アンカー工	アンカー工	抑制工完成、抑止工に着手
十津川村折立(地すべり対策工事)	26年度	押さえ盛土工、アンカー工	押さえ盛土工、アンカー工	抑制工完成
十津川村宇宮原(地すべり対策工事)	26年度	押さえ盛土工	押さえ盛土工、アンカー工	抑制工完成、抑止工に着手
十津川村今西(地すべり対策工事)	26年度	法面工	アンカー工	抑制工完成、抑止工に着手
東吉野村麦谷	26年度	堰堤工	堰堤工、除石工	災関堰堤完成、2号堰堤着手

※台風18号の影響により、平成26年度完了予定が平成27年度完了予定になった。

## 国による復旧状況

箇所名	完成目標	今後の予定工事	H25年度 工事実施内容	H24年度までの進捗状況	備考
赤谷(五條市大塔町)	28年度	砂防堰堤工、床固工群 等	砂防堰堤工	仮排水路工完成、砂防堰堤工着手	河道閉塞
清水[宇井](五條市大塔町)	28年度	法面工、護岸工 等	法面工	仮設護岸工完成、法面工着手	大規模斜面崩壊
北股(野迫川村)	28年度	砂防堰堤工、床固工群 等	砂防堰堤工	仮排水路工完成、砂防堰堤工着手	河道閉塞
坪内(天川村)	28年度	法面工、河道拡幅、護岸工 等	法面工、河道拡幅	仮設護岸工完成、河道拡幅着手	大規模斜面崩壊
長殿(十津川村)	28年度	砂防堰堤工、水路工、排土工 等	砂防堰堤工	仮排水路工完成、砂防堰堤工着手	河道閉塞
栗平(十津川村)	28年度	砂防堰堤工、床固工群、排土工 等	排水路整備工(湛水地の水位低下対策)	仮排水路工完成	河道閉塞

赤谷地区状況



平成26年1月9日撮影(排水路下流部)

長殿地区状況



平成26年1月24日撮影(堰堤設置箇所)

栗平地区状況



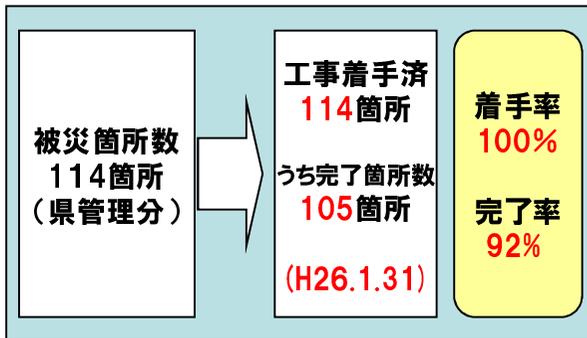
平成26年1月24日撮影(排水路状況)

# ◆インフラ等の復旧状況(河川・砂防)

## 【これまでの取組成果】

河川・砂防（県管理）の復旧は、H25年度末には、ほぼ完了する見込み（114箇所中108箇所完了予定）

## 河川・砂防の災害復旧事業



### 【前回(12月)との比較】

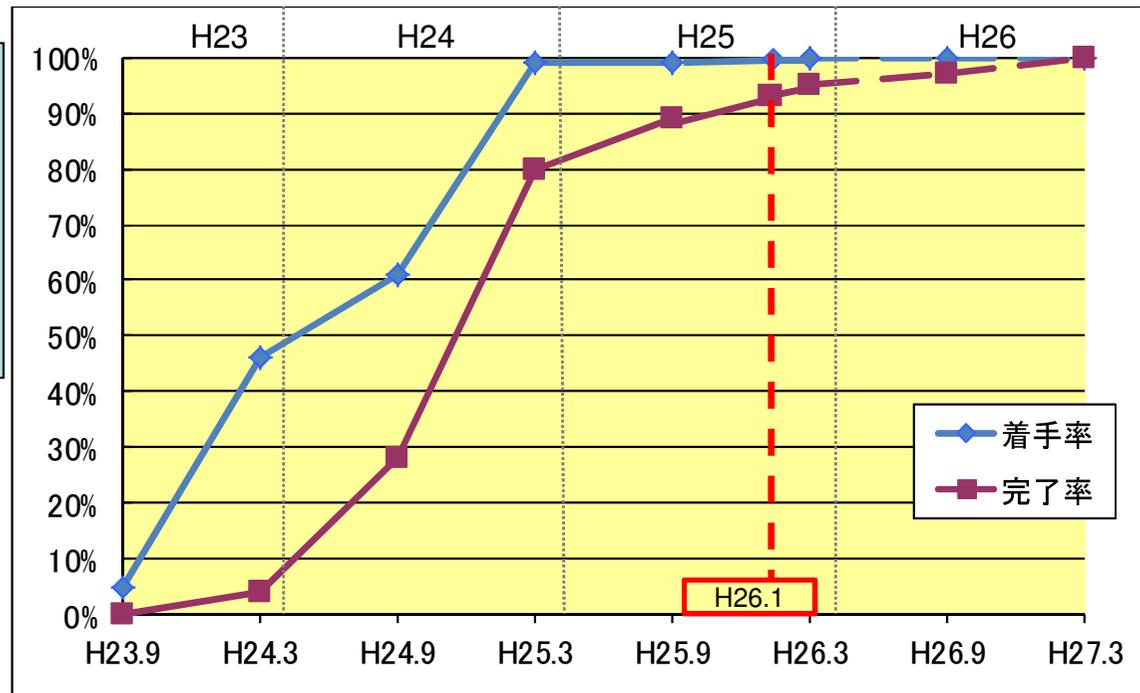
工事着手済 113箇所 → 114箇所

うち完了 103箇所 → 105箇所  
 前回以降の主な完了箇所

- ・長山谷川（御杖村土屋原）
- ・小原川（五條市大塔町宇井）

着手率 99% → 100%  
 完了率 90% → 92%

進捗状況(実績と今後の予定・見込み)



※ 平成26年度も継続する6箇所は、熊野川(十津川村宇宮原)護岸と堆積土砂2箇所、熊野川(十津川村七色)、熊野川(五條市大塔町宇井～十津川村長殿)、北山川(十津川村竹筒)、神納川(十津川村内野～杉清)

河川・砂防(市町村) 復旧対象:30箇所 →完了:30箇所(完了率100%)  
 (H26.3末見込み)

## 【集中復旧・復興期間最終年度の取組】

・台風18号の影響でH26年度も継続することになった6箇所については、H26年度中に完了させる予定。

## ○河川堆積土砂の撤去

### 【これまでの取組成果】

- ・堆積した土砂の70%は、既に撤去済み。
- ・今年度末には85%、H26年12月末までに100%撤去予定

### 河道内の大規模な堆積土砂の撤去

(河川・砂防災害の内数)

※熊野川

天川村坪内、  
五條市 大塔町宇井、清水  
十津川村宇宮原、野尻

神納川 十津川村内野～杉清

山手川 十津川村山手

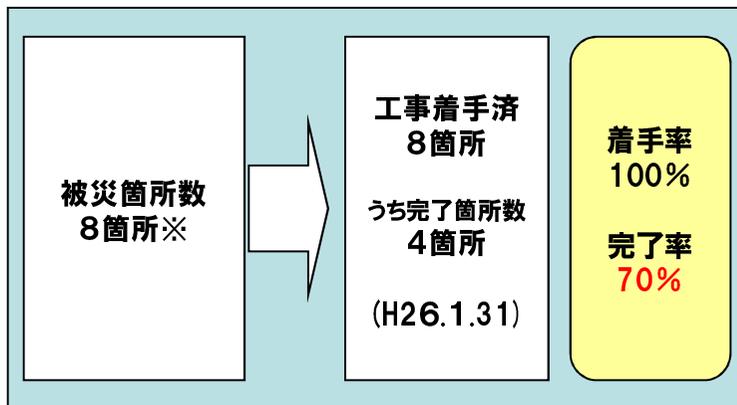
北山川 下北山村下池原

現在、残土処分地の受入れのための工事も実施中。

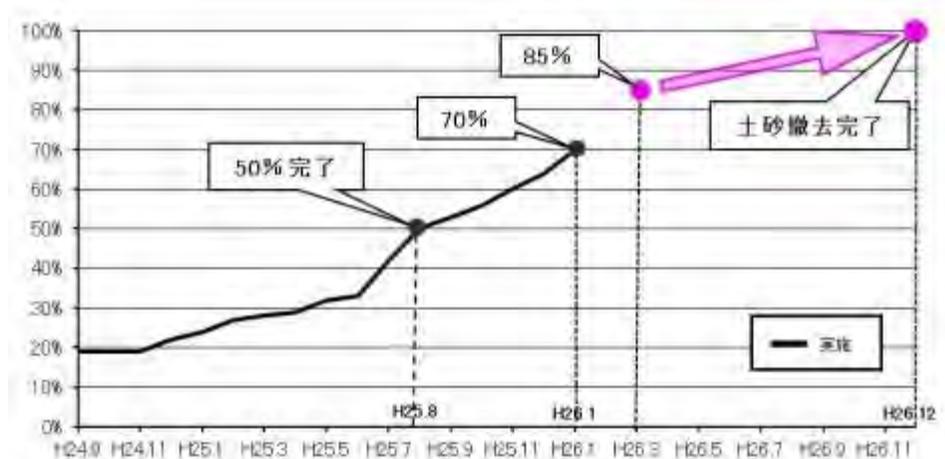
(小原川ほか3箇所)

平成26年3月までに85%の土砂撤去完了。

### ◆堆積土砂撤去土量進捗状況



【前回(12月)との比較】60%→70%土砂撤去完了



### 【集中復旧・復興期間最終年度の取組】

- ・台風18号の影響でH26年度も継続することとなったが、H26年12月末までに撤去を完了させる予定。

## 県による復旧・対策状況(河川災害)

### 【台風18号被災の影響によりH26年度も継続する箇所一覧】

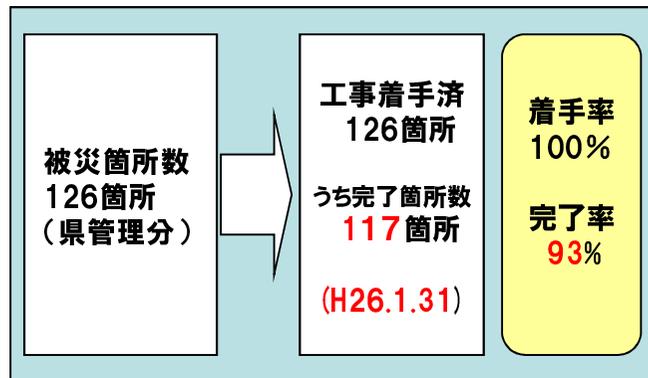
河川名	箇所	工事内容	完成目標	H26実施内容	H25年度までの実施内容
熊野川	五條市 大塔町宇井	護岸工	26年度	宇井地区グランド側護岸復旧工	宇井地区の河川堆積土砂撤去完了
熊野川	十津川村 七色	護岸工	26年度	河川護岸復旧工	—
北山川	十津川村 竹筒	護岸工	26年度	河川護岸復旧工	—
熊野川	十津川村 宇宮原	護岸工	26年度	河川護岸復旧工	—
熊野川	十津川村 宇宮原	河川堆積 土砂撤去	26年度	河川体積土砂撤去工	宇宮原地区堆積土砂80%撤去
神納川	十津川村 内野～杉清	河川堆積 土砂撤去	26年度	河川体積土砂撤去工	神納川堆積土砂48%撤去

# ◆インフラ等の復旧状況(道路)

## 【これまでの取組成果】

- ・道路の応急復旧はほぼ完了し、主要な道路はすべて通行可能
- ・道路災害復旧事業（県）は、H25年度末には、ほぼ完了する見込み（126箇所中120箇所完了予定）

## 道路の災害復旧事業



### 【前回(12月)との比較】

工事着手済 126箇所 → 126箇所

うち完了 113箇所 → 117箇所

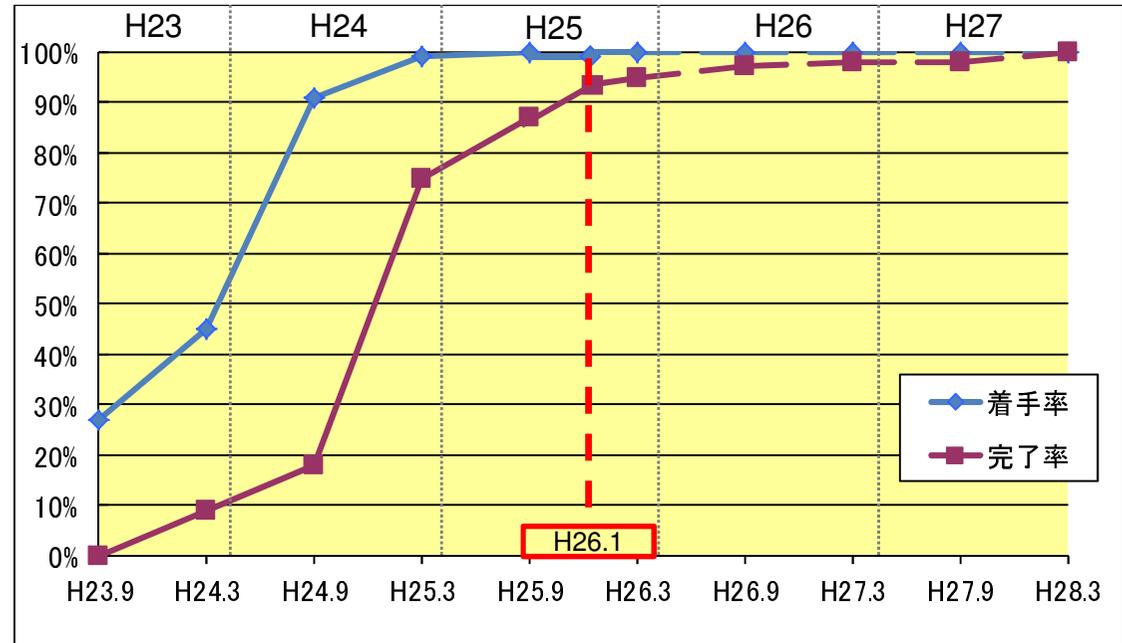
前回以降の主な完了箇所

- ・国道425号(十津川村迫西川)
- ・高野辻堂線(五條市大塔町清水)

着手率 100% → 100%

完了率 90% → 93%

## 進捗状況(実績と今後の予定・見込み)



※ 平成26年度継続箇所は、高野天川線、篠原宇井線、国道169号(川上村迫)国道369号(宇陀市榛原内牧)の4箇所と、台風18号影響による国道168号(十津川村長殿、通行機能はH25年度復旧完了)、国道168号(五條市大塔町辻堂)の計6箇所  
道路災害復旧事業(市町村):158箇所 →完了 152箇所(完了率96%)  
(H26.3末見込み)

## 【集中復旧・復興期間最終年度の取組】

- ・残り6箇所のうち、H26年度中に4箇所完了予定（2箇所はH27年度中に完了予定）

## 県による復旧・対策状況(道路災害・災害関連)

【台風18号の影響によりH26年度も継続(※1、2の2箇所H27年度継続)する箇所一覧】

路線名	箇所	工事内容	完成目標	H26実施内容	H25年度までの実施内容
国道168号	五條市 大塔町辻堂	橋梁上部工 崩土除去工	26年度	橋梁上部工	崩土除去
国道168号	十津川村 長殿	橋梁工 仮橋撤去工 崩土除去工	26年度	崩土除去工	国道復旧は当初どおり平成26年3月
国道169号	川上村迫	崩壊法面对策工 橋梁工 取付土工 仮橋撤去工	26年度	橋梁下部工、上部工 取付土工工事 仮橋撤去工	応急仮橋による国道通行確保
国道369号	宇陀市 榛原内牧	排土工 法枠工 アンカー工 吹付工	26年度	地すべり対策工事 排土工 法枠工 アンカー工 コンクリート・植生基材吹付工	仮設道路による国道通行確保
篠原宇井線 ※2	五條市 大塔町惣谷	集水井工 横ボーリング工 アンカー工	27年度	地すべり対策工事 集水井工 横ボーリング工	用地交渉 対策工法検討
高野天川線 (芦ノ瀬) ※1	天川村 南日裏	法枠工 アンカー工 横ボーリング工 橋梁上部工 流路工 他	27年度	斜面崩壊対策工事 法枠工 アンカー工 横ボーリング工	仮設道路による県道通行確保

# 国道168号 折立橋 (十津川村折立地区)

位置図



## 【被災時の状況】

- ・国道168号の熊野川に架かる折立橋の一部、トラス橋L=65.4m、鈹桁橋L=30.4mの2径間が落橋。
- ・南部地域の大動脈である国道168号が寸断され、全面通行止め。村道を迂回路とする。

## 【国土交通省による仮設橋設置】

- ・国土交通省による応急対応によって、平成23年10月30日に仮設橋が設置され、通行機能を確保。

## 【復旧完了】

- ・県による折立橋の橋梁災害復旧工事が平成26年1月31日に完了。



### ①被災直後

一般国道168号折立橋の車道橋の一部が落橋し、地域が寸断され、救助活動や地域生活に深刻な影響が生じた。

平成23年9月5日撮影



### ②国土交通省による仮設橋設置

国土交通省における迅速な応急対応によって仮設橋が平成23年10月30日に設置されたことにより、「命の道」が確保され、地域の生活が支えられてきた。

平成23年10月30日撮影



### ③県による復旧状況

平成25年5月18日撮影



### ④復旧完了

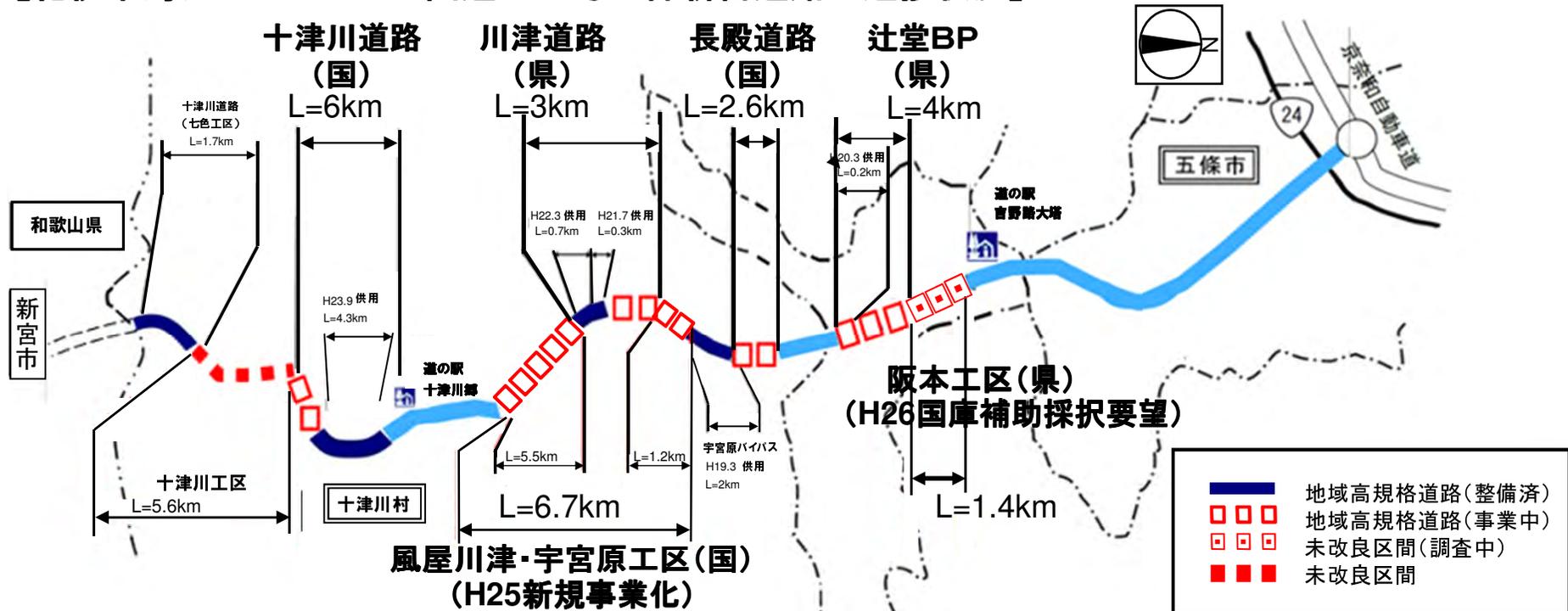
平成26年2月1日撮影

# ◆紀伊半島アンカールート

## 【これまでの取組成果】

長殿道路(H24年度)、風屋川津・宇宮原工区(H25年度)が新規事業化（直轄権限代行事業）  
既存事業区間も、着実に整備をすすめている。

## 【紀伊半島アンカールート 国道168号五條新宮道路の進捗状況】



(川津道路) 施工状況



平成25年10月18日撮影



平成26年1月23日撮影

(辻堂バイパス) 新猿谷トンネル南側付近の施工状況



平成25年10月22日撮影



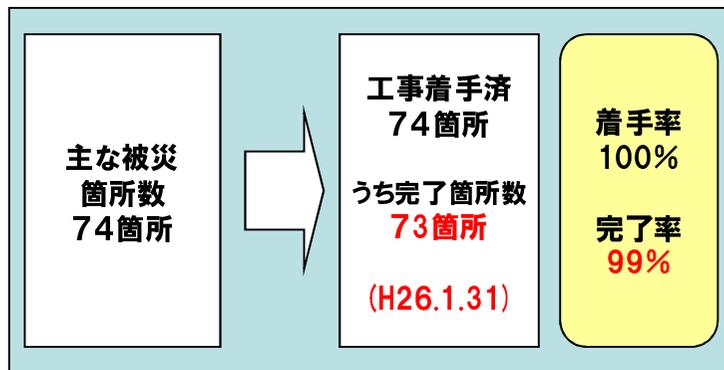
平成26年1月11日撮影

# ◆農林業関係の復旧状況

## ○農地

### 【これまでの取組成果】

農地の復旧事業は、H25年度末にはほぼ完了済み（H26年度も継続するのは1箇所のみ）

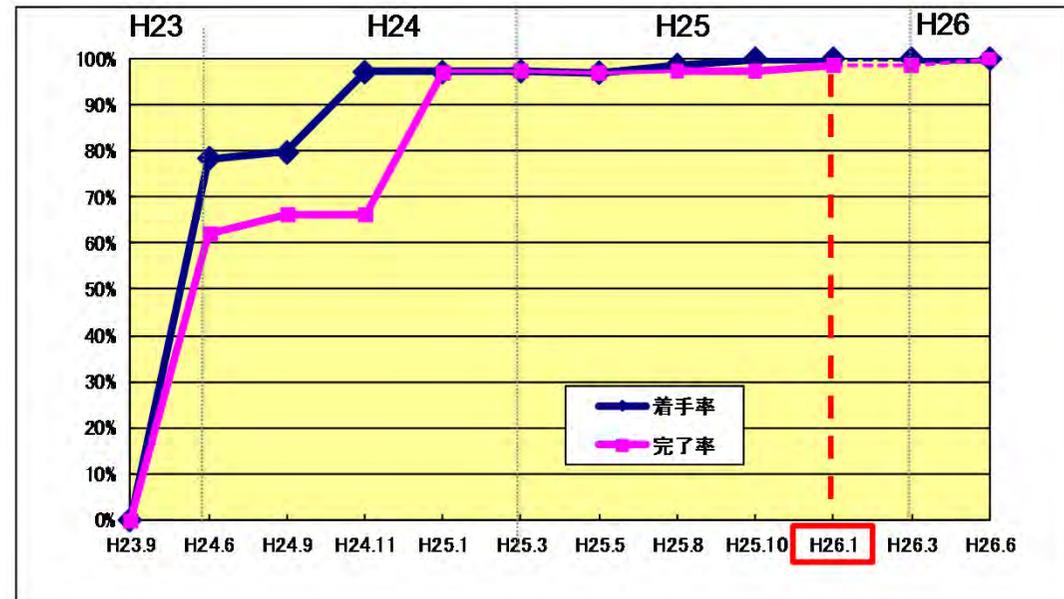


### 【前回(11月)との比較】

工事着手済 73箇所 → **74箇所**  
(前回以降の着手箇所)  
野迫川村(ワサビ田)

工事完了済 72箇所 → **73箇所**  
(前回以降の完了箇所)  
野迫川村(ワサビ田)

進捗状況(実績と今後の予定・見込み)



### 【集中復旧・復興期間最終年度の取組】

・昨年の台風18号の影響があった残り1箇所(野迫川村ワサビ田)は、H26年6月に復旧予定。

## ○ 農業用施設(農道・水路・ため池)

## 【これまでの取組成果】

農業用施設の復旧事業はすべて完了済み（H25年5月に完了）

## ○ 市町村別復旧箇所一覧

市町村名	箇所数	主要工種
五條市	2	ため池、道路
宇陀市	9	道路、水路
山添村	10	道路、水路
御杖村	7	道路、水路
明日香村	1	水路
大淀町	2	ため池、道路
野迫川村	2	ため池、道路
十津川村	1	水路
東吉野村	1	道路
合計	35	-

## ○ 復旧完了



五條市 道路法面復旧

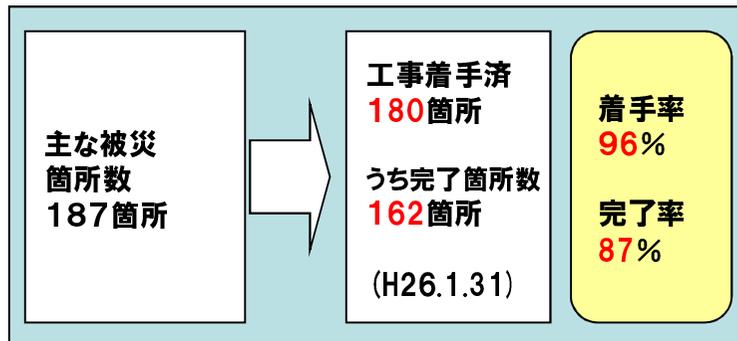


大淀町 ため池法面復旧

## ○ 林道

## 【これまでの取組成果】

林道の復旧事業は、H25年度末には、ほぼ完了する見込み（187箇所中177箇所完了予定）



## 【前回(11月)との比較】

工事着手済 177箇所 → 180箇所

前回以降の主な着手箇所

- 〔十津川村川津今西線5号箇所〕
- 〔十津川村河津今西線6号箇所〕

うち完了 152箇所 → 162箇所

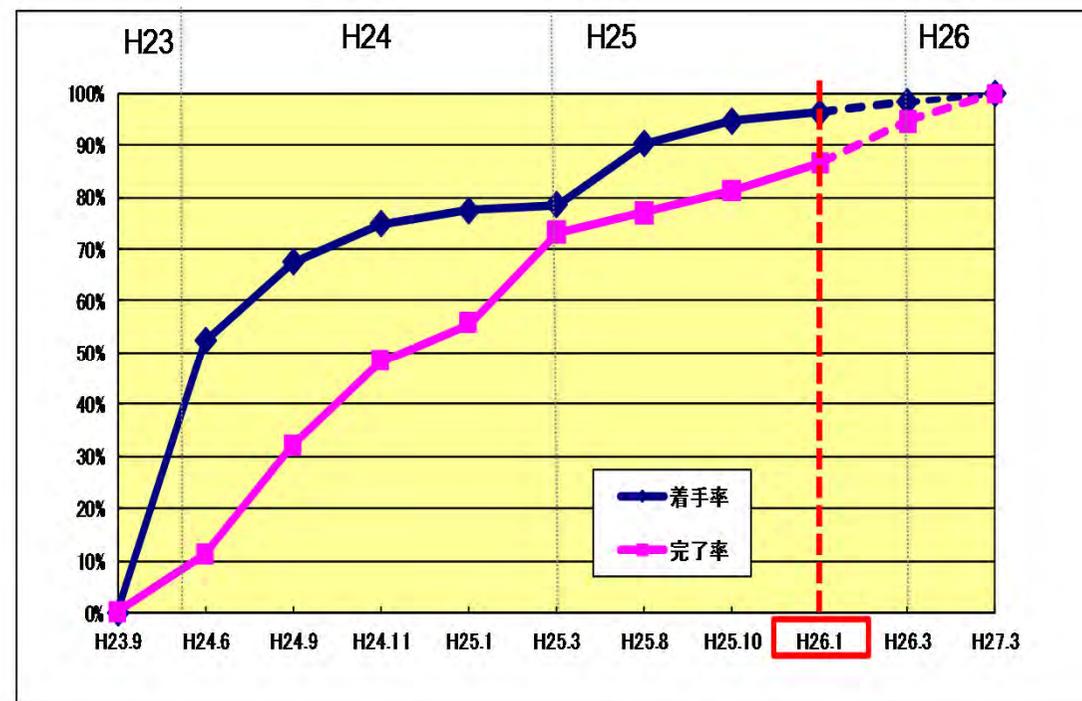
前回以降の主な完了箇所

- 〔天川村殿野坪内線4号箇所〕
- 〔野迫川村西谷線1号箇所〕

着手率 95% → 96%

完了率 81% → 87%

進捗状況(実績と今後の予定・見込み)



## 【集中復旧・復興期間最終年度の取組】

台風18号の影響でH26年度も継続することになった残り10箇所の復旧工事は、平成26年度末までに完了させる予定。

## 林道災害箇所への復旧・対策状況

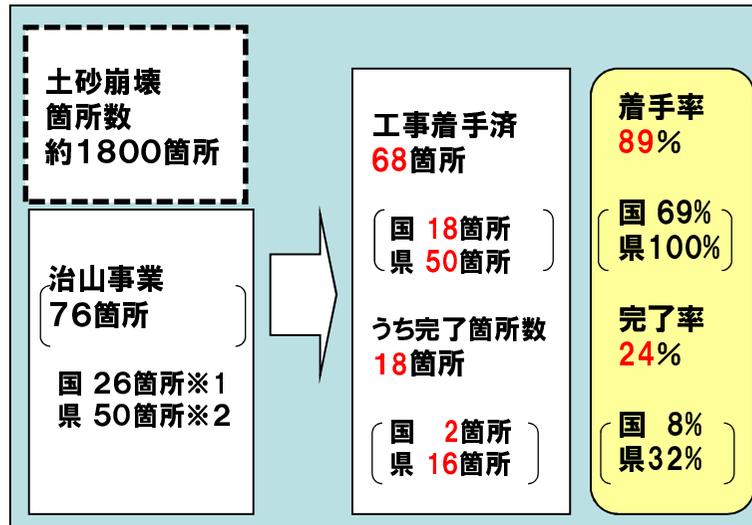
### 【台風18号被災の影響によりH26年度も継続する箇所一覧】

路線名	箇所	主な工種	完成目標	26年度も継続する理由	備考
山崎谷線 7号箇所	十津川村 山崎	・路側擁壁工 ・舗装工	H26年6月	・台風18号の影響で手前箇所が増破し、当該箇所工事着手時期の見直しが生じたため。	
川津今西線 5号箇所	十津川村 今西	・路側擁壁工 ・舗装工	H26年5月	・台風18号の影響で手前箇所の重要変更手続きに時間を要したため、当該箇所(合併施工)の着手時期に見直しが生じたため。	
川津今西線 6号箇所	十津川村 今西	・路側擁壁工 ・舗装工	H26年5月		
奥千丈線 2号箇所	十津川村 杉清	・路側擁壁工 ・舗装工	H26年7月	・台風18号により被災し、その対策工事に時間を要したことにより、着手時期の見直しが生じたため。	
小井谷線 1号箇所	十津川村 杉清	・路側擁壁工 ・排水施設工	H26年6月	・台風18号の影響により、関連箇所の工事が遅延したことにともない、当該箇所(合併施工)の着手時期に見直しが生じたため。	
小井谷線 4号箇所	十津川村 杉清	・路側擁壁工 ・土工	H26年6月		
コノ谷線 5号箇所	野迫川村 平	・路側擁壁工 ・土工	H26年6月	・台風18号の影響により手前箇所の工事が遅延したことにともない、当該箇所の着手時期に見直しが生じたため。	
桑の谷線 2号箇所	天川村 栃尾	・切土工 ・舗装工	H27年3月	・台風18号の影響により、関連の直轄治山工事の着手が遅れたことにともない、当該箇所の着手時期の見直しが生じたため。	
殿野坪内線 6号箇所	天川村 坪内	・路側擁壁工 ・舗装工	H26年7月	・台風18号の影響で仮設道が被災したことなどにより、完了時期に見直しが生じたため。	
川津今西線 4号箇所	十津川村 今西	・路側擁壁工 ・土工	H26年9月	・台風18号の影響や、工事着手後に想定していた岩盤が出ず工法の再検討に時間を要したため。	

# ○ 治山

## 【これまでの取組成果】

治山事業も、順次実施中。（68箇所です工事着手済み、うち18箇所です工事完了）



※1 国の事業箇所は、十津川地区民有林直轄治山事業全体計画に基づく箇所数（H23年度から33年度まで順次対応（計画は次ページ））

※2 県の事業箇所は、H25当初予算までの対応箇所（H26以降の箇所数は未定）

前回(11月)以降の主な着手箇所  
〔 東吉野村鷺家  
川上村中奥 〕

前回(11月)以降の主な完了箇所  
〔 天川村沢原五色谷  
天川村沢原白石谷 〕

## ○主な県の治山工事の状況

### 天川村 (沢原五色谷地区)

- 工事状況
- ・平成24年～25年度に谷止工及び山腹工を施工(完成)
  - ・平成25年度で事業完了

#### 被災直後



被災後 平成23年9月15日撮影

#### 現状



平成26年1月10日撮影  
谷止工(完成)

### 曾爾村 (葛地区)

- 工事状況
- ・平成25年度に山腹工を施工(一部分の完成)
  - ・平成26年度以降も引き続き山腹工実施予定

#### 被災直後



被災後 平成23年10月14日撮影

#### 現状



平成25年12月3日撮影  
山腹工(一部分の完成)

○主な国の治山工事の状況

※ 国事業は「十津川地区民有林直轄治山事業全体計画」に基づく事業

[施工例] 十津川村野尻(野尻地区)

○工事状況

- ・平成23年民有林直轄治山災害関連緊急事業により対策工事を実施
- ・平成24、25年度 民有林直轄治山事業継続実施



3号谷止工施工中 平成24年11月7日現在

現状



1号谷止工(副堤)施工中 平成26年1月24日現在

【直轄治山事業】 十津川地区 施工予定期間

※H26.2月時点の計画(変更後の計画)。工事の進捗状況により今後の施工期間の変更の可能性あり。

地区番号	地区名	箇所名	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	事業実施期間	地区内の主な工種
①	宇宮原区域	テラ谷												H23~H28	溪間工1.2基、山腹工6.01ha(2箇所)
		濁谷												H24~H33	
②	長殿区域	長殿谷												H29~H33	山腹工2.17ha(1箇所)
③	内野区域	山天												H23~H27	溪間工8基、山腹工3.35ha(2箇所)
		内野												H23,24,H26~30	
④	上野地区区域	河津谷												H24	溪間工3基、山腹工2.11ha(2箇所)
		高津谷												H23~H29	
⑤	西川区域	今西												H26~H33	溪間工4基、山腹工1.10ha(1箇所)
⑥	神納川区域	小井谷												H24	溪間工7基、山腹工4.05ha(4箇所)
		五百瀬1												H23~H33	
		三田谷												H27~H30	
		五百瀬2												H23~H28	
⑦	旭区域	宮谷											H27~H33	溪間工2基、山腹工1.70ha(1箇所)	
⑧	野尻区域	野尻												H23~H33	溪間工8基、山腹工3.88ha(4箇所)
		山崎谷1												H25~H27	
		山崎谷2												H27~H29	
		山崎谷3												H28~H32	
⑨	折立区域	折立											H23~H27	山腹工1.14ha(1箇所)	
⑩	堂平区域	堂平											H23~H30	山腹工3.35ha(アソカ-工、集水ホ-リソカ'工)	
⑪	赤谷区域	赤谷a												H29~H33	山腹工10.08ha(2箇所)
		赤谷b												H25~H28	
⑫	天川区域	川合												H23~H25	溪間工7基、山腹工6.30ha
		坪内												H23~H28	
		栃尾												H23~H28	
⑬	野迫川区域	北股												H29~H33	溪間工1基、山腹工3.70ha(2箇所)
		檜股												H23~H28	
計	13区域	26箇所													

【集中復旧・復興期間最終年度の取組】

- ・ 県は、多数の林地崩壊箇所のうち、緊急度・重要度の高い箇所(川上村高原地区など)を優先的に選定し、早期に対策を行う。
- ・ 国は、十津川地区民有林直轄治山事業全体計画に基づき、対策工事を実施。

# ◆第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～

ゆたかなる 森がはぐくむ 川と海

## ○大会の概要

- 主 催 豊かな海づくり大会推進委員会  
第34回全国豊かな海づくり大会  
奈良県実行委員会
- 開催日 平成26年11月16日(日)
- 開催場所 吉野郡大淀町 川上村
- 行事事場 式典行事(大淀町文化会館あらかしホール)  
放流・歓迎行事(川上村おおたき龍神湖)  
関連行事(検討中)

## 平成25年度の取り組み

- 大会基本計画、大会実施計画等の策定
- 1年前プレイベントの開催
  - ・ やまと海づくりフェスタin五條(10月12日)
  - ・ やまと海づくりフェスタinまほろばキッチン(11月9、10日)
  - ・ やまと海づくりフェスタin川上(11月23、24日)
- リレー放流の実施
- 大会弁当コンテストの実施
- 啓発ポスター、のぼり、PRグッズの作成
- 県や市町村等が実施するイベント等におけるPR
- ホームページ、広報誌等における情報発信 等

### 【集中復旧・復興期間最終年度の主な取組(H26年度予算案)】

- ・ 第34回全国豊かな海づくり大会開催(265,381千円)



式典行事(第33回熊本大会)



やまと海づくりフェスタin川上

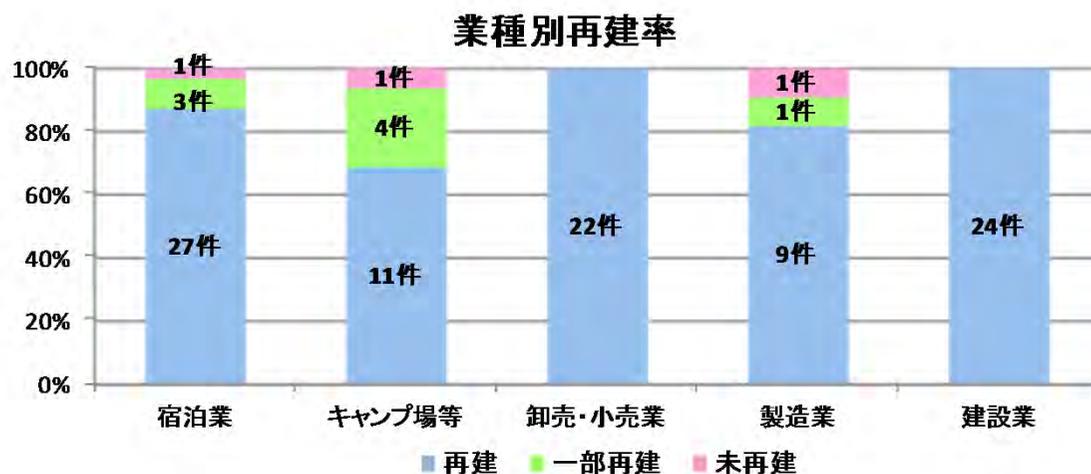
# ◆産業の復興状況

## 【これまでの取組成果】

企業の再建率 再建意欲のある事業所の97%が事業再開  
 資金貸付実績 171件 約46億円（被災直後～H25年12月末実績）  
 物産展の開催、出展を支援  
 H25年度 9市町村の取組を支援

## 再建状況調査

- ・再建意欲のある被災中小企業者等の**97.1%**（前回は95.3%）は事業を再建。（キャンプ場等で廃業が2件増加。）
- ・業種別では、卸売・小売業、建設業は100%再建。



H26.2.1現在

被害 件数A	再建 業者数B	一部 再建C	廃業D	再建率 $\frac{B+C}{A-D}$
122	97	4	18	97.1%

※廃業の理由：経営者等の死亡4件、施設・設備の修復を断念10件、高齢による4件

## 災害復旧対策資金貸付

- 貸付実績(H23.11~H25.12末)  
件数 **171件** 貸付額 **4,617百万円**  
(前回報告(9月末実績)以降の新規貸付が1件増)
- 被災中小企業者等による資金の借入れが進み、H24年7月以降の新規貸付は減少
- 貸付実績の多い業種 土木建築等 50.0% 旅館・ホテル13.1%

## 被災地域の物産販売促進支援

物産展等の開催経費を市町村に対し支援

- 平成25年度 執行予定額 9,977千円
  - ・実施市町村 1市1町7村(五條市・吉野町・黒滝村・天川村・野迫川村  
十津川村・上北山村・川上村・東吉野村)
  - ・主な物産展出展
    - H25.11.23~24 なんゆう祭(川上村)
    - H26. 1.11~12 町イチ! 村イチ! 2014(東京国際フォーラム)
    - H26. 3.15~16(予定) 旅まつり名古屋2014(久屋大通公園)



H26.1.11~12 「町イチ! 村イチ! 2014」  
での物産展開催の様子(東京国際フォーラム)

## 【集中復旧・復興期間最終年度の主な取組(H26年度予算案)】

融資制度を継続するとともに、物産販売促進支援も引き続き実施し、被災事業者の事業再建を支援。

### 台風12号災害復旧対策資金

融資枠 500,000千円 貸付限度額 設備 80,000千円 運転 80,000千円  
貸付利率 1.000% 貸付期間 10年(うち1年据置)

### 被災地域の物産販売促進支援事業(12,000千円)

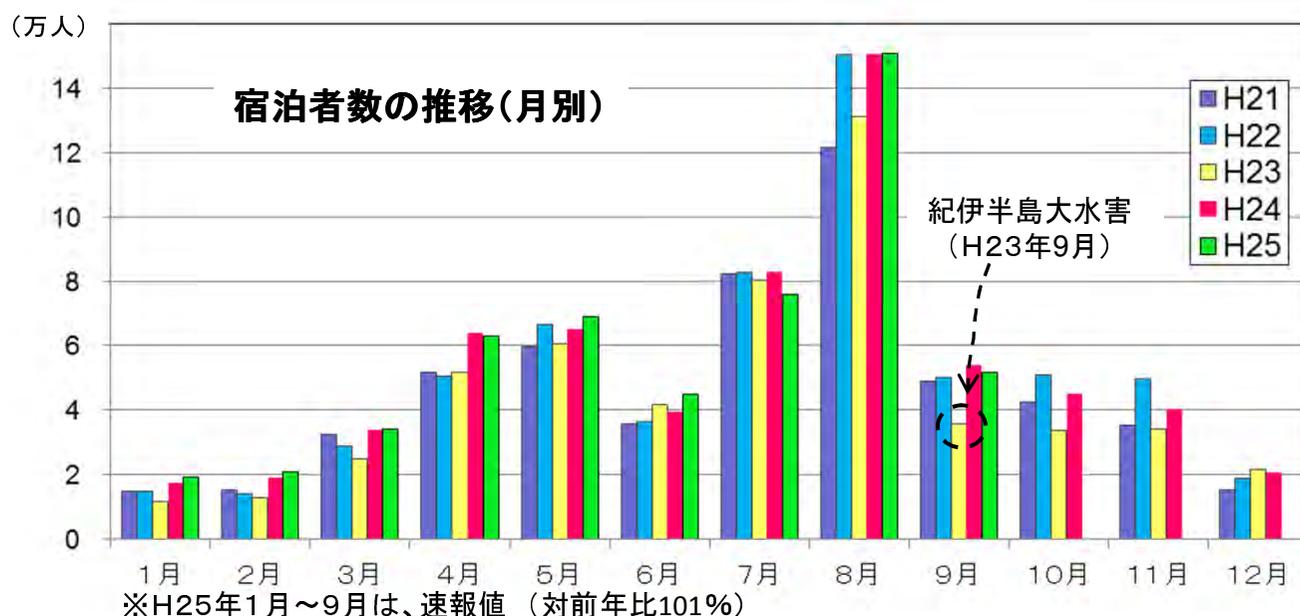
紀伊半島大水害により被災した市町村が物産展を開催又は物産展に出展する経費 に対する補助  
実施主体 被災救助法適用市町村及び(旧)セーフティネット(4号)保証適用市町村(12市町村)  
対象経費 商品運搬費、売場設営費、仕入商品代等補助上限 1,000千円/回

# ◆観光業の復興状況

## 【これまでの取組成果】

- ・県の南部・東部地域の宿泊客は、被災直後の平成23年9月～11月に大きく減少
- ・観光プロモーション、プレミアム宿泊旅行券発行、南部地域での会議の開催支援などの取組を実施
- ・こうした取組の効果などにより、平成24年の宿泊客数は、目標としていた被災前（平成22年）の宿泊客数を上回って（3%増加）おり、平成25年に入っても同水準を維持

## 宿泊客数の動向



宿泊者数(千人) (南部・東部地域)	
H21	557
H22	615
H23	541
<b>H24</b>	<b>634</b>
前年比	117%
前々年比	103%

「奈良県宿泊統計調査」より

## ○観光の復興への取組状況

### (1) 南部地域の情報発信拠点としての「JAならけん まほろばキッチン」内、観光案内所オープン

○コンシェルジュの配置。電子機器を活用し、人対人の対応による旬の観光情報を提供

○市町村との連携イベント開催

(7月27、28日 吉野町・川上村 10月6日 十津川村 10月27日 桜井・宇陀広域連合 12月22日 十津川村  
2月16日 宇陀市・東吉野村・曾爾村・御杖村・山添村)

### (2) プレミアム宿泊旅行券の発行

25年度から市町村発行へ移行(市町村の実質負担分を県が支援)

発行 23,000枚(H24県発行枚数20,000枚)

発行市町村:五條市、吉野町、天川村、十津川村、下北山村、川上村

### (3) 南部地域での会議等開催支援

H26年1月31日まで受付分 70件 宿泊予定人数 5,742人

### (4) 観光プロモーション等

○京阪神エリア、中京圏において、南部地域の特性である「温泉」「豊かな自然・歴史」をプレミアム宿泊旅行券・南部地域会議等開催支援事業とセットでPR

(静岡県、食博覧会・大阪、イオンモール堺北花田、関西国際空港で実施)

○各種媒体での特集ページの掲載

・旅行雑誌「じゃらん」(関西版11,12,1月発売号、関東版3月発売号に掲載)

・宿泊予約サイト「じゃらんnet」

・宿泊予約サイト「楽天トラベル」

特集ページ閲覧回数:24万ページビュー、期間中の泊人数:前年同時期プラス21.61%

・スマートフォン対応アプリ「週刊じゃらん」

○動画「美しき日本」制作・配信 約3分×3本(H25制作分)

インターネット動画チャンネル「Nippon Archives」での無料配信及び各種イベント、行事等で放映



観光プロモーション イオンモール堺北花田



「楽天トラベル」での特集webページ

**(5) スポーツを核とした観光振興**

- 「小辺路トレイルジャーニー」の実施支援
- 南部地域におけるサイクルスポーツイベント開催支援
  - 9/7, 8 第12回ヒルクライム大台ヶ原since2001 参加者735人
  - 10/5,6 第10回山岳グランfondin吉野 参加者450人
- アウトドアスポーツ体験事業(カヌー体験教室:おおたき龍神湖)
  - 9/7 参加者25人(障害のある方対象)
  - 11/23、24 参加者179人
- 紀伊半島三県クラブスポーツ大会の開催
  - クラブチーム対抗スポーツ大会
    - (開催地:下北山村他、種目:なぎなた(11/23、24)、女子サッカー(1/25、26)、レスリング(2/22、23) 参加者 各60人)
    - クラブスポーツ強化合宿(12/24~27 下北山村 参加者44人)



大滝ダムカヌー教室(11月)

**【集中復旧・復興期間最終年度の主な取組(H26年度予算案)】**

- ・南部地域観光復興プロモーション事業(24,510千円)  
雑誌、インターネット、スマートフォン対応アプリなどを活用した情報発信など
- ・南部宿泊観光PR事業(15,300千円)  
市町村が発行するプレミアム宿泊券に対する助成、観光プロモーションの実施  
H26年度 プレミアム宿泊券 市町村発行見込み 25,200枚(H25年度23,000枚)
- ・スポーツイベントを活用した誘客促進  
山岳グランfondin吉野、ヒルクライム大台ヶ原since2001開催支援(4,000千円)  
カヌーフェスティバル開催支援(2,000千円)  
紀伊半島三県クラブスポーツ大会開催(2,800千円)  
新 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を巡るサイクリング事業(5,000千円)  
新 シー・トゥー・サミット&環境フェスティバル開催検討事業(810千円)  
小辺路等活用ツアーイベント事業(810千円)

# ◆福祉の充実

## 【これまでの取組成果】

- ・五條市大塔町、十津川村において、山間地域における地域包括ケアの実現に向けたモデル事業を実施（地域で暮らし続けるための仕組みづくり）
  - 大塔町：高齢者の見守りや配食サービス等の生活支援がスタート
  - 十津川村：高齢者実態把握調査を実施し、高齢者向け福祉施設の在り方について検討
- ・シンポジウムの開催及び地域包括支援センターのブロック会議等を通じて、モデル事業の取り組み内容を他地域へ普及

## （進捗状況）

### （1）五條市大塔町

地域住民や関係団体、行政等による地域検討会「おおとう元気会議」が立ち上がり、様々な取り組みが広がる

- 郵便局や消防分署が高齢者の見守りに参画、避難者の一時帰宅を学生ボランティアが支援
- 財団法人大塔ふる里センターによる配食サービス開始 大塔支所による買い物バスツアー実施 等
- H25年11月3日にシンポジウムを開催し、これまでの取り組みを紹介（参加者約120名）

**H26年2月6日～2月27日までの延べ5日間10地区で、災害時の避難方法等に関する「地区別懇談会」を開催中**

### （2）十津川村

復旧・復興のための庁内検討会議「活力と魅力あふれる村づくり推進委員会」設置（H26年2月4日、12回目開催）

- H25年8月に実施した高齢者実態把握調査を通じて、有識者から提案された高齢者向け福祉施設について検討

## 【集中復旧・復興期間最終年度の主な取組（H26年度予算案）】

地域で暮らし続けるための仕組みづくり事業（2,000千円）

アドバイザー派遣、地域住民の参画を促進するための先進地視察等

- ・五條市大塔町
  - 地区別懇談会を継続実施し、そこで出された課題について「おおとう元気会議」で検討
- ・十津川村
  - 村づくり（支え合いの仕組みや福祉施設のあり方等）の検討に住民の参画を推進
- ・モデル事業の取り組み内容を、各地域包括支援センターブロック会議等を通じて普及を図る

# ◆安全・安心への備え

## ○深層崩壊のメカニズム解明と対策研究

### 【これまでの取組】

- 奈良県内で発生した54箇所の深層崩壊箇所を公表(H24.9.10)
- 「深層崩壊に関する溪流(小流域)レベルの調査」の調査結果を国土交通省が公表(H24.9.10)
- 「紀伊半島大水害 大規模土砂災害アーカイブ」のホームページを開設(H24.10.5)
- 大規模土砂災害監視・警戒・避難システム検討会(第7回)を開催(H25.6.11)
  - ・「深層崩壊のメカニズム解明に関する現状報告(平成25年6月版)」を公表 ※(平成25年2月版)を追加・更新
- 第2回 復旧・復興シンポジウム(H25.9.5)にて、インタープリメント2014プレイベントを共催

**○全国治水砂防促進大会(主催:全国治水砂防協会)において、荒井知事による「平成23年紀伊半島大水害における深層崩壊の解明と復旧・復興対策について」と題した特別講演**

**日 時:平成25年11月19日(火)**

**場 所:砂防会館別館(東京都)**

**参加者:約1,000名(市町村、国会議員、関係各団体等)**



荒井知事による特別講演

## ○監視・警戒・避難のシステムづくり

### 【これまでの取組】

- 大規模土砂災害監視・警戒・避難システム検討会(第6回)を開催(H25.2.5)
  - ・3つのモデル地区において、大規模土砂災害を想定した総合的な防災システムの検討に着手
- 大規模土砂災害監視・警戒・避難システム検討会(第7回)を開催(H25.6.11)(再掲)
  - ・「平成25年の出水期の取り組み」についてとりまとめを行い、県内市町村・関係機関等へ配布

- 「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」第7回知事会合において、奈良県知事より、防災・減災への新たな視点として、深層崩壊の調査・研究に関する情報共有などを提案(H25.7.30)
- モデル地区である天川村和田地区の自主防災組織の防災訓練(H25.9.8実施)を支援
- **深層崩壊セミナー(大規模土砂災害監視・警戒・避難システム検討会(第8回))を開催(H25.11.22)**
  - ・紀伊半島大水害で多発した深層崩壊について、これまでの調査・研究の成果を紹介するとともに、今後の調査・研究の取り組みの方向性について土砂災害対策の関係者が共に学び、共通認識を持つ機会とするため、奈良県文化会館小ホールにて開催(参加者 約200名)
- **大規模土砂災害監視・警戒・避難システム検討会(第9回)を開催(H26.2.13)**
  - ・総合的な防災システムについて、とりまとめ方針(案)を提示。また、総合的な防災システムの主要なツールとして、市町村版と地域版の2種類の「奈良県深層崩壊マップ」(案)を提示。



深層崩壊セミナーの開催案内



深層崩壊セミナーの開催状況

### 【集中復旧・復興期間最終年度の主な取組(H26年度予算案)】

- ・大規模土砂災害対策推進事業(103,000千円)  
大規模土砂災害に対応した監視・警戒・避難のシステム構築  
及び深層崩壊のメカニズム解明と対策の研究
- ・国際防災学会等開催事業(7,180千円)  
「国際防災学会インタープリメント2014奈良大会」(H26.11.25~28)の開催等

## ○災害時のライフライン(電気・通信等)の強化

### 【これまでの取組成果】

- ・避難所の機能強化（非常用電源の整備129箇所、衛星携帯電話の整備83台増加など）
- ・消防防災ヘリコプターテレビ電送システムの整備 など

### ○災害後の強化状況

<市町村>	<県>	<事業者>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所に非常用電源の整備（129避難所で整備(見込)）</li> <li>・衛星携帯電話の整備(83台増加(見込))</li> <li>・防災行政無線の強化(4市町村)</li> <li>・衛星インターネットの整備(5市町村6箇所)</li> <li>・停電時に使用可能な電話機の設置(1村)</li> <li>・特設公衆電話回線用電話機の設置(1市)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防防災ヘリコプターテレビ電送システムの整備（H26年3月整備(予定)）</li> <li>・中山間大規模避難所(十津川高校)にLPガス発電機整備</li> <li>・避難所機能緊急強化補助金の創設（H24～26年度）</li> <li>・衛星インターネットの整備                      ( 南部農林(十津川)、吉野土木(上北山、天川)                      五條土木(十津川) )</li> <li>・大和路情報ハイウェイの多重化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話基地局の停電対策の強化</li> <li>・複数の携帯電話基地局によるバックアップ体制の整備</li> <li>・ケーブルテレビの幹線二重化整備 等</li> </ul>

### ○今後の対応

#### 【非常用電源の確保等】

- ・避難所の非常用電源や衛星携帯電話等、最低限の電力や通信手段の確保を更に推進
- ・事業者は高圧発電機車、ポータブル衛星通信システム、移動基地局車等の代替手段を準備し、災害時に適切に配備

#### 【施設・設備の強化】

- ・災害に強いライフラインを確保するため、通信線、送配電線の複数ルート化や設備の強化などを推進するとともに、衛星インターネットを適切に管理・運用
- ・災害時の備えとしてのエネルギー源について、再生可能エネルギーの活用も含め多様化を促進

#### 【集中復旧・復興期間最終年度の主な取組（H26年度予算案）】

- ・避難所機能緊急強化補助事業（34,800千円）  
市町村が行う避難所の機能強化に補助  
補助率 1/3(過疎地域は5.5/10)
- ・大和路情報ハイウェイ強化事業（9,765千円）  
大和路情報ハイウェイバックアップ回線の運用
- ・緊急時情報発信ネットワーク整備事業（944千円）  
衛星インターネット回線の運用

## ◆記録の整備、次世代への継承

### 【これまでの取組成果】

- ・記録の整備、次世代への継承を目的とした「紀伊半島大水害の記録」を編纂(H25.3)
- ・防災啓発用や防災教育用の映像資料を作成するための「映像アーカイブ」を制作(H25.3)
- ・学校向け教材資料（小・中・高校生向けDVD）作成中（H26.3予定）
- ・奈良県域等における過去の災害記録を作成中（H26.3予定）

### ○紀伊半島大水害の記録編纂



「紀伊半島大水害の記録」



「パンフレット」

(H25年3月末)

- ・紀伊半島大水害の記録（224ページ、冒頭カラー）  
発行部数 1,000部
- ・パンフレット（16ページ、全文カラー）  
発行部数 2,000部
- ・映像アーカイブ(データ)  
写真 約4,200枚 動画 約66時間

(H26年3月作成予定)

- ・学校向け教材資料(小・中・高校生向けDVD)  
作成部数 1,000部
- ・紀伊半島大水害インタビュー集  
(100ページ、全文モノクロ) 発行部数 1,000部

### ○奈良県における過去の災害記録の作成

・過去の災害を教訓として伝承し、県民の防災意識の向上を図るために、紀伊半島大水害をはじめ過去の奈良県の災害を振り返り、また同時に防災・減災に資する言い伝え等を整理することで、将来にわたって防災対策に有効活用できる啓発冊子を編纂(H26年3月)。

- ・歴史から学ぶ 奈良の災害史（200ページ、冒頭カラー）発行部数 1,000部
- ・パンフレット（16ページ、全文カラー）発行部数 2,000部

### 【集中復旧・復興期間最終年度の主な取組(H26年度予算案)】

- ・新 『歴史から学ぶ 奈良の災害史』 発行記念事業（330千円）

H25年度に作成する奈良の災害史の発行を記念し、講演会及びパネル展を実施

# ◆奈良県地域防災計画の見直しについて(平成26年4月実施予定)

## 見直しの方針等

「災害による死者をなくす・人命を守る」ことを最大の目標に、できる限り被害の減少を図ることを目指す。

## 見直しの観点

### 1 紀伊半島大水害の経験・教訓を踏まえた見直し

住民の命を守るために重要な「住民避難」等について、災害を経験した市町村の取り組みも参考に、実際に役立つ防災計画となるよう、紀伊半島大水害の経験・教訓を踏まえて見直す。

### 2 大規模広域災害等への対応についての見直し

東日本大震災を踏まえて行われた災害対策基本法の改正、国の防災基本計画の修正、南海トラフ巨大地震に関する国の検討会の検討内容等を踏まえ、大規模広域災害等への対応について見直す。

## 主な見直し内容

- 1 住民避難** (避難所・避難ルートの整備・確保、避難勧告等に関する具体的な発令基準の作成、避難訓練、避難勧告等の住民への伝達、災害時要援護者の安全確保及び支援)
- 2 迅速な応急復旧** (初期対応・情報提供・早期の道路啓開、公共施設等の災害予防対策、災害廃棄物の処理)
- 3 防災関係主体の役割分担と責任の明確化**  
(日頃からの自助・共助・公助の取組の推進、学校における防災教育、教訓の伝承、企業防災の促進)
- 4 災害初動体制の確立** (組織・体制、職員の能力向上、意識づけの徹底)
- 5 情報伝達手段の確保** (情報伝達手段の迅速・確実な確保、孤立集落対策)
- 6 緊急物資の供給体制の確保** (輸送ルートの確保、緊急物資の円滑な搬送)
- 7 支援・受援体制の整備** (支援体制の整備、受援体制の整備、医療・救護体制の整備)
- 8 南海トラフ巨大地震等広域災害への対応**  
(ヘリポート等を併設した陸上自衛隊駐屯地の県南部(五條市)への誘致活動推進、備蓄庫・ヘリポート等を備えた県広域防災拠点の整備、1週間分の食料、飲料水、生活必需品の備蓄、県外で被災した場合の帰宅困難者対策の推進、観光客向けの緊急避難場所の確保等)
- 9 原子力災害対策** (国、市町村及び原子力事業者等との連絡体制の整備、原子力発電所立地県からの避難者受入への協力)

# ◆地域産業復興プロジェクトチームの取組状況

## 【これまでの取組成果】

- ・市町村の意向を踏まえ、今後重点的に検討・推進する事業テーマを設定し、市町村と連携して具体的事業を展開中。（農産品等による6次産業化の推進（下北山村の春まな）、有害鳥獣の駆除及び活用（上北山村加工施設整備）など）
- ・なんゆう祭(南部地域産業復興推進大会)の開催（H25年11月23、24日） 延べ4,950人参加

## 1 農産品等による6次産業化の推進

農産品等の生産と加工・販売にも総合的に取り組むことにより、地域資源を活用した新たな産業の創出の促進

### 【取組状況】

- 下北春まな等(下北山村で実施)
- ・獣害回避作物の栽培
- ・加工品の試作(唐辛子入り「南朝味噌」)
- ・有機農業勉強会の開催
- ・**農業用ハウスの整備及び下北春まなのハウス栽培の実施**



### 【集中復旧・復興期間最終年度の主な取組 (H26年度予算案)】

- 南部東部地域活性化イベント開催・支援事業  
(30,000千円)
- ・南部・東部地域で大規模な誘客イベントの開催
- チャレンジ品目支援事業(2,094千円)
- ・大和野菜の品質の高水準化とブランド力向上を支援
- 加工商品開発研究事業(2,500千円)
- ・県内農業者と食品加工業者の協力・連携による、県産食材を活用した新たな加工食品の研究・開発
- 新 キッチンカープロジェクト推進事業(5,840千円)
- ・南部地域等の食材を活用した「食」のプロモーションを実施

## 2 有害鳥獣の駆除及び活用

捕獲した野生獣(ニホンジカ、イノシシ)の利活用(食肉利用等)の確立

### 【取組状況】

- ・上北山村で処理加工施設を整備。獣肉利用のための捕獲及び搬入方法、商品開発の検討も実施
- ・**五條市でも処理加工施設の整備を決定**

### 【集中復旧・復興期間最終年度の主な取組 (H26年度予算案)】

- 鳥獣被害防止対策事業(213,331千円)
- ・被害防止計画に基づき市町村が実施する鳥獣被害防止対策に対して支援

### 3 エネルギーの地産地消

#### ①小水力発電

市町村等による可能性調査や事業化への支援を実施し、成果を市町村でも活用し、小水力発電の普及

##### 【取組状況】

- ・小水力発電の導入可能性調査実施
- ・調査結果を受けて事業化を検討

#### ②木質系バイオマス

「原料木材の安定供給」、「エネルギーの有効利用」、「採算性の確保」を踏まえた木質バイオマス利活用の拡大

##### 【取組状況】

- ・県有地を活用した原料木材の搬出の低コスト化及びペレットの効率的な製造工程の検証のための実施実験 など

##### 【集中復旧・復興期間最終年度の主な取組

(H26年度予算案)】

地域振興に役立つ小水力発電設置・導入支援  
(43,932千円)

- ・市町村等が実施する小水力発電の導入可能性調査に対し補助

木質バイオマス実証実験事業(39,822千円)

- ・県営林の間伐材を活用して、搬出費用の低コスト化に向けた検証と実施

### 4 コミュニティビジネス

#### ①村民参加型コミュニティビジネスの創設

##### 【取組状況】

- ・土曜朝市の開催、草刈り応援隊の活動など
- ・「下北山生活応援隊サポートきなり」の設立 (下北山村で実施)

#### ②スポーツコミュニティビジネスの創設

##### 【取組状況】

- ・講師、選手を招いての講演会の開催

##### 【集中復旧・復興期間最終年度の主な取組

(H26年度予算案)】

ふるさと復興協力隊設置事業(88,242千円)

- ・紀伊半島大水害からの復興活動等、地域協力活動に従事する人材の配置

クラブスポーツ強化合宿実施事業(1,074千円)

- ・南部地域で女子サッカー競技の県内選手を対象とした強化合宿等を実施

### 5 企業誘致

県、市町村と連携した誘致活動展開

##### 【取組状況】

- ・五條市での立地企業1社に被災地域復興推進補助金の適用予定

##### 【集中復旧・復興期間最終年度の主な取組

(H26年度予算案)】

被災地域復興推進補助金(企業立地促進補助)  
(100,000千円)

- ・南部・東部地域に立地する企業活力集積促進補助金の対象企業に対し補助金を加算

# ◆ふるさと復興協力隊

## 【これまでの取組成果】

- ・復興活動、地域協力活動、地域おこし活動などに従事する人材を県が直接採用し、市町村に配置  
平成25年度は、20名配置済み（平成26年2月1日現在）

## 配置済の隊員の主な業務

五條市	3名	仮設住宅入居者などの生活支援等
十津川村	2名	木彫り・木工指導、 <b>宿泊施設の管理運営支援等</b>
野迫川村	2名	高野槇を使った産業振興支援、 <b>観光情報の発信・誘客支援等</b>
天川村	2名	特産品の商品化・発掘販売促進支援等
川上村	1名	ツアーメニュー造成、紀伊半島大水害復興大会支援等
上北山村	3名	村おこしメニュー造成、村情報の発信、鳥獣害対策・獣肉加工支援等
下北山村	2名	地域特産物の生産販売支援等
宇陀市	2名	観光振興支援、鳥獣害対策等
高取町	1名	イベント企画運営等
<b>下市町</b>	<b>1名</b>	<b>集落点検事業支援、地域情報の発信等</b>
黒滝村	1名	農産物の生産・加工支援等

## 隊員の研修会（平成25年度）

- 5月7～8日 十津川村で実施（14名が参加）
- 10月24～25日 川上村で実施（12名が参加）
- 1月23～24日 三重県での協力隊研修会へ3名が参加**



野迫川村の協力隊の活動  
(高野槇販売等)の様子

川上村での研修会の様子



## 【集中復旧・復興期間最終年度の主な取組(H26年度予算案)】

- ・ふるさと復興協力隊配置(88,242千円)  
引き続き、南部・東部地域の市町村に「ふるさと復興協力隊」を配置(25名予定)
- ・新 ふるさと復興協力隊等定住支援(350千円)  
協力隊の任期(3年間)終了後の定住を支援